

形容詞の名詞化接尾辞-sa、-mi の意味と分布

要旨

本研究では、形容詞を名詞化する接尾辞、「-sa」「-mi」について考察を行った。特に、従来共通とされてきた2つの接尾辞の意味「程度・状態」に着目し、この「程度・状態」の意味の中にも更に「-sa」「-mi」間で違いがあるということを述べた。

考察においては、先行研究が皆無に等しかったため、動詞の種類や形容詞を変えて様々な例文を挙げて考察を行った。その結果、新たに「-sa」には**状態**¹という意味を、「-mi」には**事実**という意味を提案するに至った。更に、-sa 形では名詞化形容詞以外の項の意味的性質が文の許容の可否を左右し、-mi 形では名詞化形容詞の項の意味的性質が文の許容の可否を左右するということもわかった。

九州大学文学部
言語学・応用言語学専門分野
1LT02083T
平成14年入学
高畑 晶子
平成19年1月提出

¹ 「状態」と**状態**について：本論では、状態の意味について、先行研究で定義されている意味を表す場合を「状態」、さらにその厳密な意味を表す場合を**状態**と書き分けた。「状態」は「～である」という意味であると言われているが、本論で提案する**状態**は「現在は～であるけれども、過去・未来は～であったとは限らない」という意味である。

目次

1. はじめに	1
2. 提案	2
2.1. 「-sa」	2
2.2. 「-mi」	2
3. 考察	3
3.1. 目的語の格助詞が「が」の場合	3
3.1.1. -sa 形	4
3.1.2. -mi 形	5
3.2. 目的語の格助詞が「を」の場合	5
3.2.1 -sa 形	5
3.2.2. -mi 形	6
3.3. 提案を立証する例文	6
3.3.1. 両方の意味にとれる文	6
3.3.2. 片方の意味にのみとれる文	6
3.3.3. 例外	7
3.4. 考察のまとめ	8
4. 提案 2	9
4.1. 提案 2 の内容	9
4.2. 考察	9
4.2.1. -sa 形	9
4.2.2. -mi 形	10
5. 終わりに	10
参考文献	11
Appendix	12
A.1. 述語が「ある」の例文	12
A.2. 述語が「もっている」の例文	14
A.3. 「が」グループの例文	16
A.3.1. あふれる	16
A.3.2. 丁度いい	18
A.3.3. 必要だ	20
A.3.4. わからない	22

A.4. 「を」グループの例文	24
A.4.1. 表現する	24
A.4.2. 感じる	26
A.4.3. 経験する	28
A.4.4. おびている	30
A.5. 未整理	32

1. はじめに

私たちは、日常生活の中で極めて複雑な表現を何気なく用い、豊かな言語コミュニケーションを営んでいる。日本語の文法における研究はあらゆる方面で進んでおり、複雑な日本語の文法的規則も様々な形で明らかになってきている。

本稿では、日本語の中でも特に形容詞に焦点をあてていく。

形容詞とは、広辞苑（岩波書店 第五版）によると、「事物の性質・状態・心情等を、その接続的・静態的な属性に着目して表す語。日本語では用言の一つで、単独で述語になる」といったものである。名詞・動詞などと並んで、日本語にとって極めて基本的な品詞である。

形容詞は単に用言としての用法を持つだけでなく、語幹に接尾辞「-sa」「-mi」がつくことによって名詞（体言）の用法を持つことができる。この用法は日常生活で極めて高頻度で使われているが、この用法に着目した研究は、これまでのところ殆どない。

また、「-sa」「-mi」は形容詞を名詞化するという点では同じであるが、minimal pairの文においてもどちらかの文は許容されるけれども他方の文は許容されないということが往々にしてある。

e.g.)

太郎はつよさがあふれている

*太郎はつよみがあふれている

文献によれば、「-sa」は感情や客観的な状態を表す語につき、程度性を表す用法と、あるレベルにあることを示す用法がある。一方、「-mi」は限られた語だけに接続き、多分に感覚的・精神的である。対象から把握される主観的な状態や、感情・感覚を、相対的・全一的な状態概念として表すとされている²。

この文献では極めて辞書的な説明しかされておらず、「-sa」「-mi」の意味的分布は明らかにされていない。しかし、上記の e.g. のように「-sa」「-mi」の違いで許容されるか否かが違ってくるという事実がある以上、何らかの意味の違いは存在するはずである。

そこで本論文で、はこの形容詞の接尾辞「-sa」「-mi」の意味的な相違に注目し、ひいてはその意味的分布を明らかにしていきたい。

² 「基礎日本語辞典」森田良行(1989) pp.461-463 角川書店

2. 提案

「-sa」「-mi」にはそれぞれ次のような意味があると言われている。広辞苑（岩波書店 第五版）によると、「-sa」は「その程度・状態を表す名詞をつくる」接尾辞であり、「-mi」は「ア、所、場所を表す。イ、程度・状態を表す」接尾辞であるとされている。

この定義に従うと、「程度・状態を表す」場合には、「-sa」「-mi」のいずれも使用可能であることになる。しかし実際には、「程度・状態を表す」場合であっても、「-sa」を使うか「-mi」を使うかによって文の許容度が異なる場合がある。

- (1) a. スープのあたたかさが丁度良い
- b. *スープのあたたかみが丁度良い

本稿では、このような文の許容度の違いを説明するために、「-mi」の「程度・状態」の意味を更に厳密に定義し、単に「程度・状態」というだけでは不十分であり、「事実」という意味が含まれていることを提案する。

2.1. 「-sa」

「-sa」には程度と状態という2つの意味があるが、同一の文であっても両方の意味に解釈できる場合が多い。

- (2) 「-sa」の意味
 - a. 程度: 「どれくらい～か」という意味。
 - b. 状態: 「現在～である」という意味。更に詳しく述べると、「現在は～であるけれども、過去・未来は～であったとは限らない」という意味がある。

2.2. 「-mi」

「-mi」には事実と場所という2つの意味がある。基本的には、事実の意味が採用される。この2つの意味は非常に逐語的であり、同一の文で両方の意味が考えられるという場合は極めて稀である。

- (3) 「-mi」の意味
 - a. 事実: 「～ということ」という意味。更に詳しく述べると、「過去や未来がどのような状況かは全く考慮に入れず、現在の～という状況だけを述べる」という意味がある。
 - b. 場所: 「～という特徴をもった場所(点)」という意味。

3. 考察

「-sa」、「-mi」の意味的な違いを明確にするために、単文の minimal pair を作成し考察した。構造は「主語 + 目的語 + 述語」とし、目的語に形容詞の-sa形・-mi形をおいた。この minimal pair の文では形容詞が-sa形であるか-mi形であるかだけが異なっており、主語、述語は全て統一した。形容詞は-sa形・-mi形が共に可能である形容詞のみ 23 語を扱った。

まず、述語「ある」を用いた文について観察した。(4)では、-sa形・-mi形共に容認可能である。

- (4) a. 太郎はくるしさがある
b. 太郎はくるしみがある

(4a,b)は、一見すると同じような意味の文であるが、意味に違いがある。-mi形の「ある」は「もっている」という意味をもっている。

そこで、述語を「もっている」に変えると、許容度に違いが生じる。

- (5) a. *太郎はくるしさをもっている
b. 太郎はくるしみをもっている

このように述語を「もっている」にすると、-sa形の文が許容されずに-mi形の文が許容されるというタイプの minimal pair が「ある」のそれよりも多くなった。(4)と(5)の文を改めて比較してみると、「ある」と「もっている」は似た意味の述語ではあるが、目的語の格助詞が異なっている。そこで、次に、目的語の格助詞が「が」の場合と「を」の場合とを区別し、それぞれの場合で-sa形・-mi形の容認度の違いを比較した。

3.1. 目的語の格助詞が「が」の場合

「が」グループの述語は「あふれる」「丁度いい」「必要だ」「わからない」を用いた³。これらの例文の各項間が意味的に合致するかを調べていくと、「主語と目的語が意味的に合わないもの」、「述語と目的語が意味的に合わないもの」、「主語・述語がそれぞれ目的語と意味的に合わないもの」の3タイプがあった⁴。

³ 本章で挙げていない例文については、Appendix 参照。

⁴ 「主語・述語とも目的語と意味的に合致しない」とは、主語・述語共に変えなければ意味が通じない

- (6) a. *太郎の言動はあつさがあふれている
b. *太郎の言動はあつみがあふれている

(7) a. 太郎の言動はあかるさがあふれている
b. *太郎の言動はあかるみがあふれている

例文をみてみると、「-sa」の名詞には「どれくらい～か」という程度の意味が含まれているように感じた。一方で、「-mi」の名詞には「～という事実」という事実の意味が含まれているように感じた。

3.1.1. -sa形

まず、(6a)、(7a)について見てみよう。

- (6) a. *太郎の言動はあつさがあふれている
(7) a. 太郎の言動はあかるさがあふれている

(6a)は、主語と目的語は意味的に合致するにもかかわらず、容認度が低い。すなわち述語を変えれば許容される文になりうるということである (cf. 太郎はあつさが苦手だ)。

ところで、広辞苑(岩波書店 第五版)によると、「あふれる」の意味は「いっぱいになって外にでる。中に入りきれず外に出る。満ち満ちている。」である。すなわち、この「あふれる」という動詞の意味には既に程度の意味が含まれている。これを踏まえて、(6a)についてあらためてみてみると、「あふれる」によって「-sa」は状態の意味になると考えられる。なぜならもし「-sa」の意味を程度とすると、「あふれる」に含まれる程度と重複してしまうからである。けれども、状態の意味ととると今度は「あつさ」という意味と「あふれている」という意味が適応しない。よって、(6a)は許容されないのだと考えられる。では(7a)はなぜ容認できるのだろうか。

- (7) a. 太郎はあかるさがあふれている

(7a)の文が許容されるのは、この場合の「-sa」が状態の意味をもち、「あふれている」の程度と重複しないので、「あかるさ」と「あふれる」の意味が適応するためである。

ということである。たとえば、「*太郎はあつみがあふれている」という文の主語のみを変えた文、「*辞書はあつみがあふれている」という文も許容されず、述語のみを変えた文、「*太郎はあつみが増した」も許容されないということである。

3.1.2. -mi 形

次になぜ(6b)が許容されないかを考察する。

- (6) b. *太郎はあつみがあふれている
b'. 太郎の胸板はあつみがある
b". *太郎の胸板はあつみがあふれている

(6b)は主語・述語とも目的語と意味的に合致しない。それゆえ、主語だけを変えても、あるいは述語だけを変えても許容される文にはなりえない。「あつみ」という語には事実の意味が含まれている。事実が「あふれる」ということは意味的にありえないので、(6b)の文は許容されないのである。また、(6b)のように、「太郎の胸板」といった部位に厚いという事実があることはありうるものの、(6b)のように、「太郎」自体に厚いという事実があることはありえない。

では、(7b)が容認されないのはなぜだろうか。

- (7) b. *太郎はあかみがあふれている

(7b)は主語と目的語は意味的に合致する (cf. 太郎はあかみに出る)。この場合、「あかみ」という単語は主語や述語が何であれ、場所という意味を持つ。述語の「あふれる」と意味的に合致しないのは、場所が「あふれる」ということが意味的にありえないからである。

3.2. 目的語の格助詞が「を」の場合

「を」グループの述語は「表現する」「感じる」「経験する」「帯びる」の4つを用いた。

- (8) a. *太郎はありがたさを感じる
b. 太郎はありがたみを感じる
(9) a. 太郎はたかさを感じる
b. *太郎はたかみを感じる

3.2.1 -sa 形

格助詞が「が」の場合の-sa 形 ((6a) と、(9a) とを比較してみよう。

- (6) a. *太郎はあつさがあふれている
(9) a. 太郎はたかさを感じる

先に述べたように、(6a)は、「-sa」と「あふれている」がどちらも程度の意味であるので、容認されない。これに対し、(9a)の文が許容されるのは、この場合の「-sa」は「感じる」の意味的性質から状態・程度の両方の意味を持ち、「たかさ」と「感じる」の意味が重複しないためであると考えられる。

3.2.2. -mi 形

(8b), (9b)は、どちらも「-mi」を用いた文であるが、その容認度は異なる。

- (8) b. 太郎はありがたみを感じる
(9) b. *太郎はたかみを感じる

(8b)の「ありがたみ」には、事実の意味が含まれているが、(9b)の「たかみ」には、その形容詞の意味の特徴をもった場所の意味が含まれている (cf. ぶかみ)。これを踏まえて熟語の意味を考えると、事実を「感じる」ことはできるが、場所を「感じる」ことはできない。よって、(8b)(9b)の文に許容の可否の差が生じるのである。

3.3. 提案を立証する例文

3.3.1. 両方の意味にとれる文

「-sa」(程度と状態)

- (10) a. 人生の甘さもがさも経験してきたつもりだ
b. この楽しさは誰にもわからない
c. このお菓子のからさは尋常ではない
d. この悲しさは誰にもわからない
e. 自分のかなしさを言葉で表現する

「-mi」(事実と場所)

- (11) a. 祖父の言うことにはぶかみがある
b. あの男性には独特のしぶみがある

3.3.2. 片方の意味にのみとれる文

「-sa」(程度のみ)

- (12) a. 彼女の心のよわさを垣間見る
b. 彼のパンチのつよさは計り知れない

- c. 私と彼女のしたしさは筆舌に尽くしがたい
- d. 音楽のおもしろさを実感する
- e. 命の重さを感じる

「-sa」(状態のみ)

- (13) a. このお菓子の味にはやわらかさがある
 b. このクッションのやわらかさは気持ちがいい
 c. あの球の彫刻のまるさは見事なものだ
 d. 祖父の言うことにはふかさがある
 e. 夏にはこのすっぱさがちょうどいい

「-mi」(事実のみ)

- (14) a. このクッションのやわらかみは気持ちがいい
 b. 彼は去年に比べてまるみを帯びてきた
 c. 次の映画を楽しみにする
 d. この楽しみは誰にもわからない
 e. 夏にはこのすっぱみがちょうどいい

「-mi」(場所のみ)

- (15) a. 彼女の心のよわみを垣間見る
 b. 彼女のよわみを握る
 c. 川のふかかみにはまる
 d. 粘り強いところが私のつよみだ
 e. 事件真相があかるみに出る

3.3.3. 例外

本稿の主張で説明できる文

- (16) a. *彼女のよわさを握る
 b. ?このお菓子の味にはやわらかみがある
 c. *彼は去年に比べてまるさを帯びてきた
 d. *川のふかさにはまる
 e. ?このお茶にはにがさがある

本項の主張では説明できない文

- (17) a. ?あの球の彫刻のまるみは見事なものだ
 b. このお茶にはにがみがある
 c. この柿にはしづみがある
 d. スープのからみが丁度いい
 e. *彼女の料理のうまみに驚いた

3.4. 考察のまとめ

最後に、「-sa」の**状態**と「-mi」の**事実**の違いについて明らかにしておきたい。**状態**は「形容詞の特徴が強いのか弱いのかは不明であるけれども、その特徴を記述する」という意味がある。その一方で**事実**は「形容詞の特徴が強いのか弱いかは考慮に入れず、その特徴があるということだけを記述する」という意味がある。

以上から、「-sa」「-mi」の意味は次のようにまとめられ、文の許容の可否は述語の意味によるということになる。

- 「-sa」 : **程度**「どれくらい~か」
 : **状態**「現段階では~である」
 「-mi」 : **事実**「~ということ」
 : **場所**「~の特徴がある場所」

以上の考察に加えて、本稿で取り上げた例文では次に述べるような傾向が多々見られた。**-sa**形では名詞化形容詞以外の項の意味的性質によって名詞化形容詞の意味が決定し、その結果文全体の許容の可否が分かれる。**-mi**形では名詞化形容詞自体で既に名詞化形容詞の意味が決定しており、その結果文全体の許容の可否が分かれる⁵。

例えば、(6a)では、まず「あふれている」が「-sa」の意味を決定し、「あつい」という形容詞自体の意味を含めた「あつさ」という名詞化形容詞の意味と主語・述語の意味が合致するかどうかで文の許容の可否が左右される。一方で、(6b)では、「あつみ」自体が「-mi」の意味を決定し、「あつい」という形容詞自体の意味を含めた「あつみ」という名詞化形容詞の意味と主語・述語の意味が合致するかどうかで文の許容の可否が左右される。

- (6) a. *太郎はあつさがあふれている
 b. *太郎はあつみがあふれている

次章では、この第二の提案について考察したい。

⁵ たとえば次のような例がある。

- (i) 太郎は志のたかさが必要だ(「必要だ」が「-sa」の意味を**状態**にしている。**程度**にはならない)
- (ii) *太郎はあかるみが必要だ(「あかるみ」が「-mi」の意味を**場所**にしている。**事実**にはならない)

その他の例は「3.3.提案を立証する文」参照。

4. 提案2

4.1. 提案2の内容

-sa 形は、それそのものだけでは2つの意味にとれる可能性がある。一方、-mi 形はそれそのものだけで2つの意味のうちどちらであるかがもとと決まっている。それを文にあてはめて初めて、-sa 形はどちらかの意味に決まることも多い(ただし、文にあてはめてもどちらの意味にとれる場合もある)。このような観察から次のような提案をしたい。

文中における接尾辞の意味が決定するのは、「-sa」では名詞化形容詞以外の項の意味的性質による。「-mi」では名詞化形容詞のもととなる形容詞の意味的性質による。文の許容の可否は名詞化形容詞と主語・述語が意味的に適応するかに左右される。

4.2. 考察

以上の提案より、たとえば次の例文が説明できる。

- (18) a. ???太郎の言動はあつさが必要だ
b. 太郎の言動はあかるさが必要だ

- (6) b. *太郎の言動はあつみがあふれている
(7) b. *太郎の言動はあかるみがあふれている

4.2.1. -sa 形

まず、(18a)と(18b)を比較してみよう。

- (18) a. ???太郎の言動はあつさが必要だ
b. 太郎の言動はあかるさが必要だ

まず、(18a)の名詞化形容詞と述語の関係を考えてみる。述語「必要だ」の意味的性質が影響を及ぼし、名詞化形容詞の「-sa」は状態の意味に決定する(程度の意味にはならない)。次に、「言動」という語の意味を考えると、これは抽象的なものを意味すると言える。さらに、(18a)の「あつみ」という形容詞は「厚い」という物理的なものを形容する場合と「暑い」という抽象的なものを形容する場合がある。その上で名詞化形容詞と主語との関係は次のように考えられる。(18a)の「あつさ」が「厚さ」の場合は「言動」の意味的性質により許容されないが、「あつさ」が「暑さ」の場合は「言動」の意味的性質により、許容度は「厚さ」より格段に高くなるのである。

一方(18b)では、「言動」が、抽象的なものを形容する「あかるい」という意味と適応し、

許容される文となっている。

すなわち、(18a,b)の場合は、主語の名詞の意味的性質により、文の許容の可否が左右されているといえる。

4.2.2. -mi 形

次に(6b)と(7b)を比較してみよう。

- (6) b. *太郎の言動はあつみがあふれている

(6b)は主語・述語とも目的語と意味的に合致しない。それゆえ、主語だけを変えても、あるいは述語だけを変えても許容される文にはなりえない。まず、「あつみ」という単語には事実の意味を持つが、「厚み」であれ「暑み」であれ場所の意味は持たない。事実が「あふれる」ということは意味におかしいので、(6b)の文は許容されないと言える。また、「太郎」についても、「太郎の胸板」といった部位になれば許容できるものの、「太郎」自体に厚いという事実があるというのは許容できない。

(7b)を見てみよう。

- (7) b. *太郎の言動はあかるみがあふれている

この場合、「あかるみ」という単語は主語や述語が何であれ、場所という意味を持つ。述語の「あふれる」と意味的に合致しないのは、場所が「あふれる」ということが意味的にありえないからである。

5. 終わりに

本稿では、形容詞の名詞化接尾辞の意味とその意味の決定までのプロセスについて考察を行ったが、名詞化形容詞についてはまだまだ研究されるべき事象が多分にある。例えば、形容詞の意味が positive か negative かで-mi 形が成立するか否かが決定するという事実がある⁶。この事実についても先行研究は皆無に等しく、研究の余地は十分にある。今後、名詞化接尾辞「-sa」「-mi」についての更なる研究が行われる際に本稿が何らかの形で関わることができれば幸いである。

最後に、一年間の長きに渡りご指導くださった上山あゆみ先生を始め、文献探しにご尽

⁶ 対義語「深い」「浅い」のペアで具体例を示すと、「深さ」「浅さ」は共に言える。しかし、-mi 形になると「深み」は言えるが「*浅み」は言えない。このように、negative な意味をもつ形容詞は-mi 形が作りにくい。

力いただいた田中大輝先輩、論文記述の添削・指導を受け持ってくださいました山田絵美先輩、その他様々な助言を下された諸先輩方に感謝いたします。

参考文献

- 森田良行(1989)『基礎日本語辞典』 角川書店
新村出編(1998)『広辞苑』第五版 岩波書店

Appendix

以下、本論では挙げなかったが、考察の対象として扱った例文を紹介する。

A.1. 述語が「ある」の例文

- (19) あたたかい
a. 太郎の性格にはあたたかきがある
b. 太郎の人柄にはあたたかみがある
- (20) あつい
a. 太郎の性格にはあつさがある
b. *太郎にはあつみがある
- (21) たかい
a. ?太郎にはたかさがある
b. *太郎にはたかみがある
- (22) あかるい
a. 太郎にはあかるさがある
b. *太郎にはあかるみがある
- (23) あまい
a. 太郎にはあまさがある
b. *太郎にはあまみがある
- (24) ありがたい
a. ?太郎にはありがたさがある
b. 太郎には雰囲気によりがたみがある
- (25) いたい
a. ?太郎にはいたさがある
b. 太郎にはいたみがある
- (26) うまい
a. ?太郎にはうまさがある
b. *太郎にはうまみがある
- (27) おもい
a. *太郎にはおもさがある
b. 太郎には性格におもみがある
- (28) おもしろい
a. 太郎にはおもしろさがある
b. 太郎の人柄にはおもしろみがある

- (29) かなしい
 a. 太郎には雰囲気になさげがある
 b. 太郎の人生にはかなしみがある
- (30) からい
 a. 太郎の言動にはからさげがある
 b. *太郎にはからみがある
- (31) くるしい
 a. 太郎の生活にはくるしさがある
 b. 太郎には病気のくるしみがある
- (32) したしい
 a. 太郎にはしたしさがある
 b. 太郎にはしたしみがある
- (33) しづい
 a. 太郎には性格にしづさがある
 b. 太郎には雰囲気にしづみがある
- (34) すっぱい
 a. *太郎にはすっぱさがある
 b. *太郎にはすっぱみがある
- (35) たのしい
 a. 太郎の性格にはたのしさがある
 b. 太郎には毎日のたのしみがある
- (36) つよい
 a. 太郎には性格に芯のつよさがある
 b. 太郎には自慢できるつよみがある
- (37) ながい
 a. *太郎にはながさがある
 b. ?太郎にはながみがある
- (38) ふかい
 a. 太郎には人間味にふかさがある
 b. 太郎には雰囲気になかみがある
- (39) まるい
 a. 太郎には性格にまるさがある
 b. 太郎には体型にまるみがある
- (40) やわらかい
 a. 太郎には人柄にやわらかさがある

- b. 太郎には雰囲気になかみがある
- (41) よわい
 a. 太郎にはよわさがある
 b. 太郎にはよわみがある

A.2. 述語が「もっている」の例文

- (42) あたたかい
 a. ?太郎はあたたかさをもっている
 b. 太郎はあたたかみをもっている
- (43) あつい
 a. *太郎はあつさをもっている
 b. *太郎はあつみをもっている
- (44) たかい
 a. *太郎はたかさをもっている
 b. *太郎はたかみをもっている
- (45) あかるい
 a. *太郎はあかるさをもっている
 b. *太郎はあかるみをもっている
- (46) あまい
 a. *太郎はあまさをもっている
 b. *太郎はあまみをもっている
- (47) ありがたい
 a. *太郎はありがたさをもっている
 b. ?太郎はありがたみをもっている
- (48) いたい
 a. *太郎はいたさをもっている
 b. 太郎は心の中にいたみをもっている
- (49) うまい
 a. *太郎はうまさをもっている
 b. *太郎はうまみをもっている
- (50) おもい
 a. *太郎はおもさをもっている
 b. ?太郎はおもみをもっている
- (51) おもしろい
 a. *太郎はおもしろさをもっている
 b. 太郎は人格におもしろみをもっている

- (52) かなしい
a. *太郎はかなしさをもっている
b. 太郎は今でもかなしみをもっている
- (53) からい
a. *太郎はからさをもっている
b. *太郎はからみをもっている
- (54) くるしい
a. *太郎はくるしさをもっている
b. 太郎は常にくるしみをもっている
- (55) したしい
a. ?太郎はしたしさをもっている
b. 太郎は彼女にしたしみをもっている
- (56) しづい
a. *太郎はしづさをもっている
b. 太郎は雰囲気にしづみをもっている
- (57) すっぱい
a. *太郎はすっぱさをもっている
b. *太郎はすっぱみをもっている
- (58) たのしい
a. *太郎はたのしさをもっている
b. 太郎は毎日のたのしみをもっている
- (59) つよい
a. ?太郎はつよさをもっている
b. 太郎はつよみをもっている
- (60) ながい
a. *太郎はながさをもっている
b. 太郎は人生経験にながみをもっている
- (61) ふかい
a. ?太郎はふかさをもっている
b. 太郎は雰囲気にかみをもっている
- (62) まるい
a. *太郎はまるさをもっている
b. 太郎は雰囲気にもるみをもっている
- (63) やわらかい
a. ?太郎はやわらかさをもっている

- b. 太郎の性格はやわらかみをもっている
- (64) よわい
a. ?太郎はよわさをもっている
b. 太郎はよわみをもっている
- A.3. 「が」グループの例文**
- A.3.1. あふれる**
- (65) あたたかい
a. 太郎はあたたかさがあふれている
b. 太郎にはあたたかみがあふれている
- (66) あつい
a. *太郎はあつさがあふれている
b. *太郎はあつみがあふれている
- (67) たかい
a. *太郎はたかさがあふれている
b. *太郎はたかみがあふれている
- (68) あかるい
a. 太郎は言動にあかるさがあふれている
b. *太郎はあかるみがあふれている
- (69) あまい
a. ?太郎はあまさがあふれている
b. *太郎はあまみがあふれている
- (70) ありがたい
a. ?太郎はありがたさがあふれている
b. *太郎はありがたみがあふれている
- (71) いたい
a. *太郎はいたさがあふれている
b. *太郎はいたみがあふれている
- (72) うまい
a. *太郎はうまさがあふれている
b. *太郎はうまみがあふれている
- (73) おもい
a. *太郎はおもさがあふれている
b. *太郎はおもみがあふれている
- (74) おもしろい
a. 太郎は行動におもしろさがあふれている

- b. *太郎はおもしろみがあふれている
- (75) かなしい
- a. 太郎の言葉にはかなしさがあふれている
- b. *太郎はかなしみがあふれている
- (76) からい
- a. *太郎はからさがあふれている
- b. *太郎はからみがあふれている
- (77) くるしい
- a. 太郎はくるしさがあふれている
- b. *太郎はくるしみがあふれている
- (78) したしい
- a. 太郎の笑顔にはしたしさがあふれている
- b. *太郎はしたしみがあふれている
- (79) しづい
- a. 太郎の表情はしづさがあふれている
- b. ?太郎はしづみがあふれている
- (80) すっぱい
- a. *太郎はすっぱさがあふれている
- b. *太郎はすっぱみがあふれている
- (81) たのしい
- a. 太郎の笑顔はたのしさがあふれている
- b. *太郎はたのしみがあふれている
- (82) つよい
- a. 太郎はつよさがあふれている
- b. *太郎はつよみがあふれている
- (83) ながい
- a. *太郎はながさがあふれている
- b. *太郎はながみがあふれている
- (84) ふかい
- a. ?太郎はふかさがあふれている
- b. *太郎はふかみがあふれている
- (85) まるい
- a. *太郎はまるさがあふれている
- b. *太郎はまるみがあふれている
- (86) やわらかい

- a. 太郎の表情はやわらかさがあふれている
- b. *太郎はやわらかみがあふれている
- (87) よわい
- a. ?太郎はよわさがあふれている
- b. *太郎はよわみがあふれている

A.3.2. 丁度いい

- (88) あたたかい
- a. 太郎は毛布のあたたかさが丁度いい
- b. *太郎はあたたかみが丁度いい
- (89) あつい
- a. ?太郎はあつさが丁度いい
- b. *太郎はあつみが丁度いい
- (90) たかい
- a. 太郎は背のたかさが丁度いい
- b. *太郎はたかみが丁度いい
- (91) あかるい
- a. 太郎は性格のあかるさが丁度いい
- b. *太郎はあかるみが丁度いい
- (92) あまい
- a. 太郎はケーキのあまさが丁度いい
- b. *太郎はあまみが丁度いい
- (93) ありがたい
- a. *太郎はありがたさが丁度いい
- b. *太郎はありがたみが丁度いい
- (94) いたい
- a. *太郎はいたさが丁度いい
- b. *太郎はいたみが丁度いい
- (95) うまい
- a. 太郎はサッカーのうまさが丁度いい
- b. *太郎はうまみが丁度いい
- (96) おもい
- a. 太郎は体重のおもさが丁度いい
- b. *太郎はおもみが丁度いい
- (97) おもしろい
- a. 太郎はおもしろさが丁度いい

- b. *太郎はおもしろみが丁度いい
- (98) かなしい
- a. *太郎はかなしさが丁度いい
- b. *太郎はかなしみが丁度いい
- (99) からい
- a. *太郎はからさが丁度いい
- b. *太郎はからみが丁度いい
- (100) くるしい
- a. *太郎はくるしさが丁度いい
- b. *太郎はくるしみが丁度いい
- (101) したしい
- a. 太郎は性格のしたしさが丁度いい
- b. *太郎はしたしみが丁度いい
- (102) しづい
- a. 太郎は雰囲気やしづさが丁度いい
- b. ?太郎はしづみが丁度いい
- (103) すっぱい
- a. *太郎はすっぱさが丁度いい
- b. *太郎はすっぱみが丁度いい
- (104) たのしい
- a. *太郎はたのしさが丁度いい
- b. *太郎はたのしみが丁度いい
- (105) つよい
- a. 太郎は野球のつよさが丁度いい
- b. *太郎はつよみが丁度いい
- (106) にがい
- a. ?太郎はにがさが丁度いい
- b. *太郎はにがみが丁度いい
- (107) ふかい
- a. ?太郎はふかさが丁度いい
- b. *太郎はふかみが丁度いい
- (108) まるい
- a. 太郎は性格のまるさが丁度いい
- b. ?太郎はまるみが丁度いい
- (109) やわらかい

- a. 太郎は頬のやわらかさが丁度いい
- b. ?太郎はやわらかみが丁度いい
- (110) よわい
- a. 私にとって太郎のサッカーのよわさが丁度いい
- b. *太郎はよわみが丁度いい
- A.3.3. 必要だ**
- (111) あたたかい
- a. 太郎は毛布のあたたかさが必要だ
- b. 太郎は家族のあたたかみが必要だ
- (112) あつい
- a. 太郎は行動にあつさが必要だ
- b. 太郎は胸板のあつみが必要だ
- (113) たかい
- a. 太郎は志のたかさが必要だ
- b. *太郎はたかみが必要だ
- (114) あかるい
- a. 太郎はあかるさが必要だ
- b. *太郎はあかるみが必要だ
- (115) あまい
- a. 太郎は疲れているので砂糖のあまさが必要だ
- b. *太郎はあまみが必要だ
- (116) ありがたい
- a. ?太郎はありがたさが必要だ
- b. *太郎はありがたみが必要だ
- (117) いたい
- a. ?太郎はいたさが必要だ
- b. 太郎は心のいたみが必要だ
- (118) うまい
- a. 太郎は世渡りのうまさが必要だ
- b. ?太郎はうまみが必要だ
- (119) おもい
- a. 太郎は体重のおもさが必要だ
- b. ?太郎はおもみが必要だ
- (120) おもしろい
- a. 太郎はもう少し話のおもしろさが必要だ

- b. 太郎は人生におもしろみが必要だ
- (121) かなしい
 - a. 太郎は他人を悼むかなしさが必要だ
 - b. *太郎はかなしみが必要だ
- (122) からい
 - a. 太郎はもう少し言動にからさが必要だ
 - b. *太郎はからみが必要だ
- (123) くるしい
 - a. 太郎はくるしさが必要だ
 - b. 太郎は成長のためにくるしみが必要だ
- (124) したしい
 - a. 太郎は人気者になるためにしたしさが必要だ
 - b. *太郎はしたしみが必要だ
- (125) しづい
 - a. 太郎は声にしづさが必要だ
 - b. 太郎は雰囲気にしづみが必要だ
- (126) すっぱい
 - a. *太郎はすっぱさが必要だ
 - b. *太郎はすっぱみが必要だ
- (127) たのしい
 - a. 太郎はたのしさが必要だ
 - b. 太郎はたのしみが必要だ
- (128) つよい
 - a. 太郎はつよさが必要だ
 - b. 太郎はつよみが必要だ
- (129) ながい
 - a. 太郎は人生にながさが必要だ
 - b. 太郎は珈琲のながみが必要だ
- (130) ふかい
 - a. 太郎にはプールのふかさが必要だ
 - b. *太郎はふかみが必要だ
- (131) まるい
 - a. 太郎は性格にまるさが必要だ
 - b. 太郎は健康になるために体型にまるみが必要だ
- (132) やわらかい

- a. 太郎は物腰のやわらかさが必要だ
- b. 太郎は雰囲気のやわらかみが必要だ
- (133) よわい
 - a. ?太郎はよわさが必要だ
 - b. ?太郎はよわみが必要だ
- A.3.4. わからない**
- (134) あたたかい
 - a. 太郎は沖縄のあたたかさがわからない
 - b. 太郎は家族のあたたかみわからない
- (135) あつい
 - a. 太郎はこのお湯のあつさがわからない
 - b. *太郎はあつみがわからない
- (136) たかい
 - a. 太郎は富士山のたかさがわからない
 - b. *太郎はたかみわからない
- (137) あかるい
 - a. 太郎はイルミネーションのあかるさがどれほどのものかわからない
 - b. *太郎はあかるみがわからない
- (138) あまい
 - a. 太郎はこの饅頭のあまさがわからない
 - b. ?太郎はあまみがわからない
- (139) ありがたい
 - a. 太郎は食べ物のありがたさがわからない
 - b. 太郎は家族のありがたみがわからない
- (140) いたい
 - a. 太郎は転んだときのいたさがわからない
 - b. 太郎は人の心のいたみがわからない
- (141) うまい
 - a. 太郎は風邪をひいていて料理のうまさがわからない
 - b. 太郎はこの煮物のうまみがわからない
- (142) おもい
 - a. 太郎は引越しの荷物のおもさがわからない
 - b. *太郎はおもみがわからない
- (143) おもしろい
 - a. 太郎は漫画のおもしろさがわからない

- b. 太郎はこのジョークのおもしろみがわからない
- (144) かなしい
- a. 太郎は人の死のかなしさがわからない
- b. *太郎はかなしみがわからない
- (145) からい
- a. 太郎はタバスコのからさがわからない
- b. *太郎はからみがわからない
- (146) くるしい
- a. 太郎は飢えのくるしさがわからない
- b. *太郎はくるしみがわからない
- (147) したしい
- a. ?太郎はしたしさがわからない
- b. *太郎はしたしみがわからない
- (148) しづい
- a. 太郎は柿のしづさがわからない
- b. ?太郎はしづみがわからない
- (149) すっぱい
- a. 太郎はお酢のすっぱさがわからない
- b. ?太郎はすっぱみがわからない
- (150) たのしい
- a. 太郎は恋愛映画のたのしさがわからない
- b. *太郎はたのしみがわからない
- (151) つよい
- a. 太郎は次郎の腕相撲のつよさがわからない
- b. 太郎は自分のつよみがわからない
- (152) にがい
- a. 太郎はにがりのにがさがわからない
- b. 太郎はビターチョコのにがみがわからない
- (153) ふかい
- a. 太郎は川のふかさがわからない
- b. 太郎は川のふかみがどこなのかわからない
- (154) まるい
- a. ?太郎はまるさがわからない
- b. *太郎はまるみがわからない
- (155) やわらかい

- a. 太郎はマシュマロのやわらかさがわからない
- b. 太郎は彼の性格のやわらかみがわからない
- (156) よわい
- a. 太郎は自分の心のよわさがわからない
- b. *太郎はよわみがわからない
- A.4. 「を」グループの例文**
- A.4.1. 表現する**
- (157) あたたかい
- a. 太郎は毛布のあたたかさを言葉で表現する
- b. 太郎は家族のあたたかみを言葉で表現する
- (158) あつい
- a. 太郎は夏のあつさを顔の表情で表現する
- b. 太郎は辞書のあつみを身振りで表現する
- (159) たかい
- a. 太郎は富士山のたかさを声色で表現する
- b. *太郎はたかみを表現する
- (160) あかるい
- a. 太郎は電気のあるさを一言で表現する
- b. ?太郎はあかるみを表現する
- (161) あまい
- a. 太郎はケーキのあまさを顔で表現する
- b. 太郎はぜんざいのあまみを言葉で表現する
- (162) ありがたい
- a. ?太郎はありがたさを表現する
- b. 太郎は家族のありがたみをプレゼントで表現する
- (163) いたい
- a. 太郎は足のいたさを歩き方で表現する
- b. 太郎は心のいたみを涙で表現する
- (164) うまい
- a. 太郎は料理のうまさを笑顔で表現する
- b. 太郎は料理のうまみを言葉で表現する
- (165) おもい
- a. 太郎は荷物のおもさを表情で表現する
- b. 太郎は事態のおもみを声色で表現する
- (166) おもしろい

- a. 太郎はおもしろさを表現する
 - b. 太郎はおもしろみを表現する
- (167) かなしい
- a. 太郎は母の死のかなしさを表現する
 - b. 太郎はかなしみを絵に表現する
- (168) からい
- a. 太郎はわさびのからさを涙で表現する
 - b. 太郎はからしのからみを言葉で表現する
- (169) くるしい
- a. 太郎は今のくるしさを顔で表現する
 - b. 太郎は生きるくるしみを演劇で表現する
- (170) したしい
- a. *太郎はしたしさを表現する
 - b. 太郎は次郎へのしたしみを態度で表現する
- (171) しづい
- a. 太郎は大人のしづさをふるまいで表現する
 - b. 太郎は柿のしづみを顔で表現する
- (172) すっぱい
- a. 太郎はすっぱさを表現する
 - b. 太郎はすっぱみを表現する
- (173) たのしい
- a. 太郎はたのしさを表現する
 - b. 太郎は食べるたのしみを表情で表現する
- (174) つよい
- a. 太郎は力をつよさを筋肉で表現する
 - b. 就職活動で太郎は自分のつよみを文章で表現する
- (175) ながい
- a. 太郎はゴーヤのながさを表現する
 - b. 太郎は珈琲のながみを表現する
- (176) ふかい
- a. 太郎は川のふかさを身振りで表現する
 - b. 太郎は川のふかみを地図で表現する
- (177) まるい
- a. 太郎は次郎の性格のまるさを文章で表現する
 - b. 太郎は体型のまるみを絵で表現する

- (178) やわらかい
- a. 太郎は肉のやわらかさを言葉で表現する
 - b. 太郎は肉のやわらかみを表現する
- (179) よわい
- a. 太郎は心のよわさを演技で表現する
 - b. 太郎は自分のよわみを文章で表現する
- A.4.2. 感じる**
- (180) あたたかい
- a. 太郎は毛布のあたたかさを感じる
 - b. 太郎は家族のあたたかみを感じる
- (181) あつい
- a. 太郎は友情のあつさを感じる
 - b. 太郎は辞書のあつみを感じる
- (182) たかい
- a. 太郎はビルのたかさを感じる
 - b. *太郎はたかみを感じる
- (183) あかるい
- a. 太郎はトンネルを抜けてあかるさを感じる
 - b. 太郎は彼女の性格のあかるみを感じる
- (184) あまい
- a. 太郎は自分の認識のあまさを感じる
 - b. 太郎はケーキのあまみを感じる
- (185) ありがたい
- a. *太郎はありがたさを感じる
 - b. 太郎は家族のありがたみを感じる
- (186) いたい
- a. *太郎はいたさを感じる
 - b. 太郎は他人の心のいたみを感じる
- (187) うまい
- a. 太郎は彼女の口のうまさを感じる
 - b. 太郎は煮物のうまみを感じる
- (188) おもい
- a. 太郎はおもさを感じる
 - b. 太郎は自分の責任のおもみを感じる
- (189) おもしろい

- a. 太郎は勉強のおもしろさを感じる
 - b. 太郎は研究のおもしろみを感じる
- (190) かなしい
- a. 太郎は親が感じたかなしさをを感じる
 - b. 太郎はかなしみを感じる
- (191) からい
- a. 太郎は唐辛子のからさを感じる
 - b. 太郎は料理のからみを感じる
- (192) くるしい
- a. 太郎は研究のくるしさをを感じる
 - b. 太郎は人生のくるしみを感じる
- (193) したしい
- a. *太郎はしたしさをを感じる
 - b. 太郎は彼女にしたしみを感じる
- (194) しづい
- a. 太郎は次郎に大人のしづさを感じる
 - b. 太郎は柿のしづみを感じる
- (195) すっぱい
- a. 太郎はお酢のすっぱさを感じる
 - b. 太郎はお酢のすっぱみを感じる
- (196) たのしい
- a. 太郎は研究のたのしさをを感じる
 - b. 太郎は人生のたのしみを感じる
- (197) つよい
- a. 太郎は心のつよさを感じる
 - b. 太郎は自分のつよみを感じる
- (198) にがい
- a. 太郎はゴーヤのにがさを感じる
 - b. 太郎はゴーヤのにがみを感じる
- (199) ふかい
- a. 太郎は次郎の心のふかさを感じる
 - b. 太郎は川のふかみを見た目で感じる
- (200) まるい
- a. *太郎はまるさを感じる
 - b. 太郎は暗いながらも彫刻のまるみを感じる

- (201) やわらかい
- a. 太郎は彼の物腰のやわらかさを感じる
 - b. 太郎は煮物の味のやわらかみを感じる
- (202) よわい
- a. 太郎は自分の心のよわさを感じる
 - b. 太郎は面接ではじめて自分のよわみを感じる
- A.4.3. 経験する**
- (203) あたたかい
- a. 太郎は最新の布団のあたたかさを経験する
 - b. 太郎は村人のあたたかみを経験する
- (204) あつい
- a. 太郎はエジプトのあつさを経験する
 - b. 太郎は鉄板のあつみを経験する
- (205) たかい
- a. 太郎は新しいビルのたかさを経験する
 - b. 太郎は富士山のたかみを経験する
- (206) あかるい
- a. 太郎は白夜のあかるさを経験する
 - b. 太郎は最新の電球のあかるみを経験する
- (207) あまい
- a. 太郎は新しい甘味料のあまさを経験する
 - b. 太郎は初めて砂糖のあまみを経験する
- (208) ありがたい
- a. 太郎はありがたさを経験する
 - b. 太郎はご先祖さまのありがたみを経験する
- (209) いたい
- a. 太郎は受験に失敗した時のいたさを経験する
 - b. 太郎は骨折のいたみを経験する
- (210) うまい
- a. 太郎は煮物のうまさを経験する
 - b. 太郎は新しいダシのうまみを経験する
- (211) おもい
- a. 太郎は辞書のおもさを経験する
 - b. 太郎は人生のおもみを経験する
- (212) おもしろい

- a. 太郎はゲームのおもしろさを経験する
 - b. 太郎は研究のおもしろみを経験する
- (213) かなしい
- a. 太郎は人の死のかなしさを経験する
 - b. 太郎は人の死のかなしみを経験する
- (214) からい
- a. 太郎は世界一辛い唐辛子のからさを経験する
 - b. 太郎はからしのからみを経験する
- (215) くるしい
- a. 太郎は人が死んだ時のくるしさを経験する
 - b. 太郎は受験戦争のくるしみを経験する
- (216) したしい
- a. ?太郎はしたしさを経験する
 - b. ?太郎はしたしみを経験する
- (217) しづい
- a. 太郎は渋柿のしづさを経験する
 - b. 太郎は渋柿のしづみを経験する
- (218) すっぱい
- a. 太郎はお酢のすっぱさを経験する
 - b. 太郎はお酢のすっぱみを経験する
- (219) たのしい
- a. 太郎は研究のたのしさを経験する
 - b. 太郎は苦しみの中のたのしみを経験する
- (220) つよい
- a. 太郎は次郎の柔道のつよさを経験する
 - b. ?太郎はつよみを経験する
- (221) にがい
- a. 太郎はゴーヤのにがさを経験する
 - b. 太郎はゴーヤのにがみを経験する
- (222) ふかい
- a. 太郎は新しいプールのふかさを経験する
 - b. 太郎は溺れて海のふかみを経験する
- (223) まるい
- a. ?太郎はまるさを経験する
 - b. *太郎はまるみを経験する

- (224) やわらかい
- a. 太郎は新素材のクッションのやわらかさを経験する
 - b. 太郎は新素材のクッションのやわらかみを経験する
- (225) よわさ
- a. 太郎は就職活動を通して心のよわさを経験する
 - b. ?太郎はよわみを経験する
- A.4.4. おびている**
- (226) あたたかい
- a. *太郎はあたたかさをおびている
 - b. 太郎は雰囲気にあたたかみをおびている
- (227) あつい
- a. *太郎はあつさをおびている
 - b. *太郎はあつみをおびている
- (228) たかい
- a. *太郎はたかさをおびている
 - b. *太郎はたかみをおびている
- (229) あかるい
- a. ?太郎はあかるさをおびている
 - b. 太郎は性格にあかるみをおびている
- (230) あまい
- a. ?太郎はあまさをおびている
 - b. ?太郎はあまみをおびている
- (231) ありがたい
- a. *太郎はありがたさをおびている
 - b. ?太郎はありがたみをおびている
- (232) いたい
- a. ?太郎はいたさをおびている
 - b. 太郎は人知れず心にいたみをおびている
- (233) うまい
- a. *太郎はうまさをおびている
 - b. *太郎はうまみをおびている
- (234) おもい
- a. *太郎はおもさをおびている
 - b. 太郎は人生におもみをおびている
- (235) おもしろい

- a. *太郎はおもしろさをおびている
 - b. 太郎は性格におもしろみをおびている
- (236) かなしい
- a. ?太郎はかなしさをおびている
 - b. 太郎はどこもなくかなしみをおびている
- (237) からい
- a. *太郎はからさをおびている
 - b. *太郎はからみをおびている
- (238) くるしい
- a. ?太郎はくるしさをおびている
 - b. 太郎の表情はくるしみを おびている
- (239) したしい
- a. ?太郎はしたしさを おびている
 - b. 太郎の笑顔はしたしみを おびている
- (240) しづい
- a. ?太郎はしづさをおびている
 - b. 太郎は大人のしづみをおびている
- (241) すっぱい
- a. *太郎はすっぱさをおびている
 - b. *太郎はすっぱみをおびている
- (242) たのしい
- a. *太郎はたのしさを おびている
 - b. ?太郎はたのしみを おびている
- (243) つよい
- a. 太郎は雰囲気 に芯のつよさをおびている
 - b. ?太郎はつよみをおびている
- (244) ながい
- a. *太郎はながさをおびている
 - b. ?太郎はながみをおびている
- (245) ふかい
- a. *太郎はふかさを おびている
 - b. 太郎は雰囲気 にふかみをおびている
- (246) まるい
- a. *太郎はまるさを おびている
 - b. 太郎は体型にまるみをおびている

- (247) やわらかい
- a. ?太郎はやわらかさをおびている
 - b. 太郎は雰囲気 にやわらかみをおびている
- (248) よわい
- a. *太郎はよわさをおびている
 - b. ?太郎はよわみをおびている
- A.5. 未整理**
- (249)
- a. あの人の言葉には温かさがある
 - b. あの人の言葉には温かみがある
- (250)
- a. あの人の言葉には冷たさがある
 - b. *あの人の言葉には冷たみがある
- (251)
- a. 山のあの高さまで登る
 - b. ?山のあの高みまで登る
- (252)
- a. ?山のあの低さまで登る
 - b. *山のあの低みまで登る
- (253)
- a. 橋の長さを調べる
 - b. 日本一短い橋がどれかを調べるために橋の短さを調べる(文によっては例外)
- (254)
- a. 品物の重さを調べる
 - b. 持ち運びに適するように品物の軽さを調べる(文によっては例外)
- (255) あかい
- a. 秋になり、もみじの赤みが強くなった
 - b. *秋になり、もみじの赤さが強くなった
 - c. このりんごの赤さはもう食べ頃だ
 - d. ?このりんごの赤みはもう食べ頃だ
- (256) あかるい
- a. ようやく洞窟からあかるみに抜け出した
 - b. *ようやく洞窟からあかるさに抜け出した
- (257) あたたかい
- a. いざというときに家族のあたたかみを感じる

b. いざというときに家族のあたたかさを感じる
(258) あたたかい

さ・*み

- a. スープのあたたかさが丁度良い
- b. *スープのあたたかみが丁度良い

(259) あつい

さ・み

- a. 本のあつさをみて驚く
- b. 本のあつみをみて驚く

さ・*み

- c. 夏のあつさにはうんざりだ
- d. *夏のあつみにはうんざりだ

(260) たかい

*さ・み

- a. *山の高さに登ると気分が良い
- b. 山の高みに登ると気分が良い

さ・*み

- c. 値段の高さに思わず声をあげる
- d. *値段の高みに思わず声をあげる

(261) あかるい

*さ・み

- a. *事件の真相があかるさに出る
- b. 事件真相があかるみに出る

さ・*み

- c. 彼女の性格のあかるさは感じが良い
- d. *彼女の性格のあかるみは感じが良い

(262) あまい

さ・*み

- a. 今回の実験の失敗はつめの甘さが原因だった
- b. *今回の実験の失敗はつめの甘みが原因だった

さ・み

- c. このケーキは甘さが上品だ
- d. このケーキは甘みが上品だ

(263) ありがたい

さ・み

a. いざというとき親のありがたさがわかる

b. いざというとき親のありがたみがわかる

さ・*み

- c. 人々の助けのありがたさは筆舌に尽くしがたい
- d. *人々の助けのありがたみは筆舌に尽くしがたい

(264) いたい

さ・み

- a. この怪我の痛さは半端ではない
- b. この怪我の痛みは半端ではない

*さ・み

- c. *被害者の心の痛さを分かち合う
- d. 被害者の心の痛みを分かち合う

(265) うまい

さ・み

- a. この肉のうまさは筆舌に尽くしがたい
- b. この肉のうまみは筆舌に尽くしがたい

さ・*み

- c. 彼女の料理のうまさに驚いた
- d. *彼女の料理のうまみに驚いた

(266) おもい

さ・*み

- a. 赤ちゃんのおもさをはかる
- b. *赤ちゃんのおもみをはかる

さ・み

- c. 命の重さを感じる
- d. 命の重みを感じる

(267) おもしろい

さ・み

- a. 音楽のおもしろさを実感する
- b. 音楽のおもしろみを実感する

?さ・み

- c. ?かえって危機的な状況の方がおもしろさがある
- d. かえって危機的な状況の方がおもしろみがある

(268) かなしい

さ・み

- a. 自分のかなしさを言葉で表現する
- b. 自分の悲しみを言葉で表現する

*さ・み

- c. この悲しさは誰にもわからない
- d. この悲しみは誰にもわからない

(269) からい

さ・*み

- a. このお菓子のからさは尋常ではない
- b. *このお菓子のからみは尋常ではない

さ・み

- c. スープのからさが丁度いい
- d. スープのからみが丁度いい

(270) くるしい

- a. 友達と今のくるしさをわかちあう
- b. 友達と今のくるしみをわかちあう

(271) したい

さ・*み

- a. 私と彼女のしたしさは筆舌に尽くしがたい
- b. *私と彼女のしたしめは筆舌に尽くしがたい

*さ・み

- c. *本にも挿絵があった方がしたしさがわく
- d. 本にも挿絵があった方がしたしめがわく

(272) しづい

*さ・み

- a. ?この柿にはしづさがある
- b. この柿にはしづみがある

さ・み

- c. あの男性には独特のしづさがある
- d. あの男性には独特のしづみがある

(273) すっぱい

さ・み

- a. 夏にはこのすっぱさがちょうどいい
- b. 夏にはこのすっぱみがちょうどいい

(274) たのしい

さ・み

- a. この楽しさは誰にもわからない
- b. この楽しみは誰にもわからない

*さ・み

- c. *次の映画を楽しみにする
- d. 次の映画を楽しむにする

(275) つよい

*さ・み

- a. *粘り強いところが私のつよさだ
- b. 粘り強いところが私のつよみだ

さ・*み

- c. 彼のパンチのつよさは計り知れない
- d. *彼のパンチのつよみは計り知れない

(276) ながい

?さ・み

- a. ?このお茶にはながさがある
- b. このお茶にはながみがある

さ・*み

- c. 人生の甘さもながさも経験してきたつもりだ
- d. *人生の甘さもながみも経験してきたつもりだ

(277) ふかい

さ・み

- a. 祖父の言うことにはふかさがある
- b. 祖父の言うことにはふかみがある

*さ・み

- c. *川のふかさにはまる
- d. 川のふかみにはまる

(278) まるい

さ・?み

- a. あの球の彫刻のまるさは見事なものだ
- b. ?あの球の彫刻のまるみは見事なものだ

*さ・み

- c. *彼は去年に比べてまるさを帯びてきた
- d. 彼は去年に比べてまるみを帯びてきた

(279) やわらかい

さ・み

- a. このクッションのやわらかさは気持ちがいい
- b. このクッションのやわらかみは気持ちがいい

さ・*み

- c. このお菓子の味にはやわらかさがある
- d. ?このお菓子の味にはやわらかみがある

(280) よわい

*さ・み

- a. *彼女のよわさを握る
- b. 彼女のよわみを握る

さ・*み

- c. 彼女の心のよわさを垣間見る
- d. 彼女の心のよわみを垣間見る